

論文

エジプトから見た日本のユートピア

アミーラ・サイード・アリー・ユースフ 博士（文学、筑波大学）

これは、エジプト人の私から見た宮澤賢治の日本のユートピア論について、彼の少年小説を中心に以下のように考察したものである。

一九二五年に『赤い鳥』に載った、『イーハトヴ童話 注文の多い料理店』のいわゆる「新刊書御案内」という紹介文の中で、自分自身の童話について、「実にこれは著者の心象中に、この様な状景をもつて実在したドリームランドとしての日本岩手県である。

（中略）これらは新しい、よりよい世界の構成材料を提供しようとはする。けれどもそれは全く、作者に未知な絶えざる驚異に値する世界自身の発展であつて決して畸形に涅槃えあげられた煤色のユートピアではない。」（「新刊案内」、森本政彦発行『【新】校本宮沢賢治全集 第一二巻 童話〔V〕・劇・その他 本文篇』筑摩書房、一九九五年、前付（p. [二]））と宮沢賢治自身が明記した。

本稿では、宮沢賢治の童話を代表する、「ポラーノの広場」、「銀河鉄道の夜」、「グスコーブドリの伝記」という少年小説のそれぞれの系作品群を分析対象にし、それぞれにおいて賢治自身が提供しようとした「新しい、よりよい世界の構成材料」は一体何なのか、という疑問点を持って、それぞれの少年小説における賢治の思想を簡単に検証したい。



まず、賢治は、「ポラーノの広場」系作品群を通して、「挑戦」、「勇気」、「献身性」、それに「心理的成熟性」に恵まれて「勤勉生活」を成功裏に送ることも「上の世代への尊敬とその支援や指導」の下に成った「立身出世」もできた「少年主人公」ファゼーロが、年齢差や社会地位や職種の差異を超越した、「相互理解と尊重」、「約束厳守」の他、「利他性」や「恩返し」などに溢れた性格によって成功した「搾取のない」「理想友人関係」を通して、酒やいかがわしい娯楽などがなくとも、他者の役に立つ仕事と芸術を一体化したユニークで理想的な「ポラーノの広場」を、「新しい、よりよい世界」の典型的な「事例」として、提供したのである、ということが考察される。

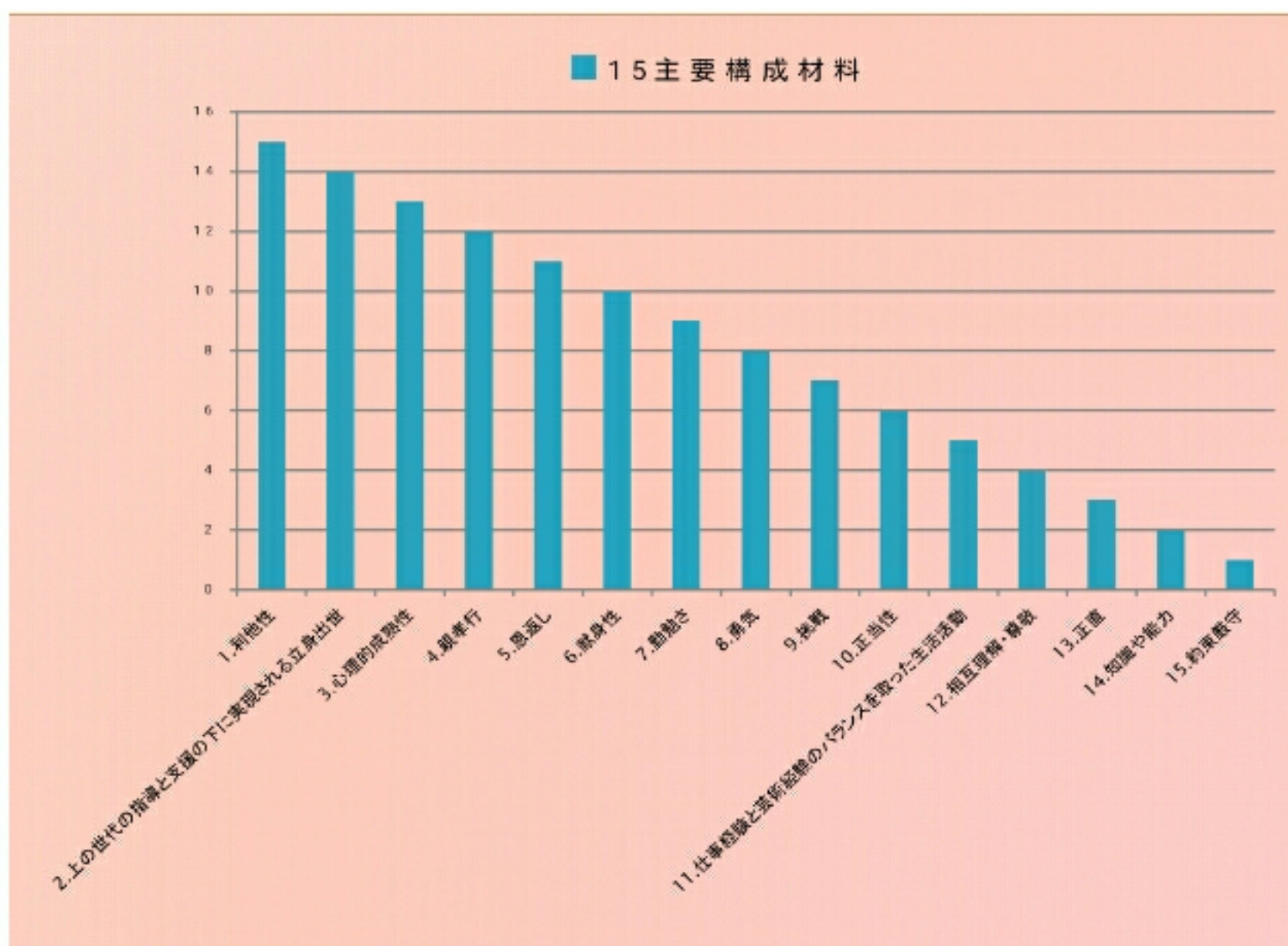
次に、「銀河鉄道の夜」系作品群においてあらためて「挑戦」、「勇気」、「献身性」、「心理的成熟性」、「恩返し」という価値観にも触れたが、それ以外にも賢治は、永続の「友人関係維持」の基本的な条件を「うそをつかないこと」すなわち「友人間での正直さ」として提供した。かつ親孝行している子供として描かれた第一少年主人公ジョバンニおよび第二少年主人公カムパネルラを通して「親孝行」に重きを置いた上、主に「お母さんのさいわいをはじめとしてみんなのさいわいを求めた第一主人公」、「クラスメートを救って命を失った第二主人公」、「みんなのために暗闇を明るくすべく自分の体を焼いた重要な登場人物として描出された蝸」を通して、賢治は、人生における「重要価値観」としての「利他性」のモチーフを何より強化して描き、「利他性」の道徳性や好影響に焦点を当てたことが明らかになるであろう。それと同時に、その「利他性」を重んじた少年主人公の考え方の形成における大人の登場人物の役割にウェートを置くことにより、賢治は「若い世代の立身出世の実現過程における上の世代の役割」を強調し、親や年長者世代を尊敬し、彼らの支援や指導を受け入れることの重要性を示してきたと思われる。

さらに賢治は「グスコブドリの伝記」系作品群の改訂版「グスコンブドリの伝記」、そして決定版「グスコブドリの伝記」を通して、「特別な条件」下においてのみ「自己犠牲」に変貌する、「利他性」の特定の事例」や「上の世代を尊敬し、彼らの支援や指導」を受けたことによって誰にも比べ得ない立派な「立身出世」ができた若者の「具体的例」までを提供することにつとめたことが分かる。まさにマイナスの段階から人生の経緯が始まった少年主人公ブドリは「年長者の支援や指導」を様々な段階を通して受けてきたことが要因となって、他者の「利益」もしくは「利他」を優先させることのできる人物に成長し、大出世をしてイーハトーヴ火山局の心得の役職に就くことが

できた。出世したブドリが、自分の故郷の人々のために楽しく安定した生活を実現させるべく、一人で火山を爆発させるという、自分を犠牲にするおそれがある危険な役目を果たしたという物語が、とりわけ「グスコブドリの伝記」系作品群の改訂版「グスコブドリの伝記」と、後に発表された決定版「グスコブドリの伝記」の主要テーマとして、描かれたのであろう。

一方、「グスコブドリの伝記」系作品群の草稿「ペンネンネンネン・ネネムの伝記」においては、ばけもの世界裁判長という非常に高い地位にまで「立身出世」に成功したネネムの裁判長としての仕事振りを通して、賢治は「正当性」の重要性にウェートを置く事例を提供したが、特に、裁判長ネネムが自ら起こした、人間界への片足だけの出現という微罪に対しても、厳しく裁いたという設定を通じて、「正当性」の意味を厳密に示してみせたと考えられる。

本稿中に取り上げて考察してきた三少年小説の、それぞれの物語設定に関する解釈に基づいて、賢治が「提供しよう」とした「新しい、よりよい世界の構成材料」のいわば「主要構成材料」を結論として次のように具体的に特定してみたい。筆者の考えでは、賢治の代表的な三少年小説「ポラーノの広場」、「銀河鉄道の夜」、「グスコブドリの伝記」のそれぞれの系作品群を通して、賢治が提供しようと思った「新しい、よりよい世界の構成材料」の「主要構成材料」は、作品の中で特に強調されていると見なされる順に、〔一〕「利他性」、〔二〕「上の世代の指導と支援の下に実現される立身出世」、〔三〕「心理的成熟性」、〔四〕「親孝行」、〔五〕「恩返し」、〔六〕「献身性」、〔七〕「勤勉さ」、〔八〕「勇気」、〔九〕「挑戦」、〔一〇〕「正当性」、〔一一〕「仕事経験と芸術経験のバランスを取った生活活動」、〔一二〕「相互理解・尊敬」、〔一三〕「正直」、〔一四〕「知識や能力」、〔一五〕「約束厳守」といった特定の「一五の構成材料」になると言える。



以上検証してきたように、自身の「心象中に、実在したドリームランドとしての日本岩手県」を「新しい、よりよい世界」として構成するために、これらの「一五構成材料」を、「少年小説」を通して設定し、読者に「提供しよう」と意図し努力したことであろう。賢治は、これらの「一五構成材料」に基づき理想化された「新しい、よりよい世界」を、「夢が実現する場所」として、単に心象上の架空の場所としてではなく、現実実現させることができるユートピア的なイーハトーブとして期待していたのであろう。また、宮澤賢治の童話を代表する少年小説における「ユートピア」の構成材料の提供の中で、言わば賢治の「ユートピアの思想」そのものが暗示されている、と言えるであろう。



最後に一言、今日は、エジプトの革命からも日本の大震災からもほぼ十年経ちました。ここに、エジプト人殉教者・日本人犠牲者と両国の遺族に対し、深く哀悼の意を表します。賢治がほぼ九五前に東北から、「新しい、よりよい世界の構成材料」を送ったよう

に、わたくしも、私を絶えず励ましてくださっている両親をはじめとして兄弟、親類、先生方に、そして、友達、読者の皆さんに、さらに、二〇一一年一月二五日の革命から前向きに革新へ向かっているエジプト国民の皆さん、同年三月一日東日本大震災からの復興に近づいてきている日本国民の皆さんにも、拙論で特定した、賢治の思想を表す、上述の「一五構成材料」をメッセージとしてお送りして、一緒に我々の「新しい、よりよい世界」を「構成」することを願うと共に永遠の世界平和と安定を祈念し、筆を擱くことにします。

アミーラ・サイード・アリー・ユースフ

エジプト投資フリーゾーン庁 国際報告書課代表ゼネラルダイ クタ、日本投資促進機構
ファイルトップコーディネーター、日本語翻訳者
カイロ大学文学部日本語日本文学科 非常勤講師
アスワン大学アルスン(言語)学部日本語学科 非常勤講師
国防省付属言語学院日本語専攻長

初出『IIET 通信第 51 号』2018 年、国際交流研究所、東京国際大学
本論は宮沢賢治について日本語で書かれた研究論文である。